

環境活動レポート

(平成 19 年度版)

(平成 18 年 1 1 月 ~ 平成 19 年 2 月)

(作成日：平成 19 年 3 月 3 0 日)



大光炉材株式会社

新素材統括部

・ **事業概要**

事業所名：	大光炉材株式会社 新素材統括部 URL:http://www.taiko-ref.com
代表者：	執行役員 新素材統括部長 平川 明宏
所在地：	福岡県北九州市戸畑区牧山新町 1 番 1 号
環境管理責任者：	新素材開発部部长/工場長 奥村 耕一
連絡先：	新素材統括部 直通電話：093-871-8356～7 FAX：093-882-7300 E-mail： nm@taiko-ref.co.jp
事業内容：	ファインセラミックス製品の製造販売および関連事業の研究
従業員数： 事業所延べ床面積：	20 名 850m ²



大光炉材株式会社 環境宣言

世界的環境汚染の進む中、当社は「環境基本法」および関係法令を遵守し積極的に行動します。これらの活動を通じての社会貢献を喜びとし環境保護に役立つことを誇りとします。

原料、製品において環境汚染に影響を及ぼすものを使用・製造・販売しません。
製造過程等において省エネ・環境保全に徹し環境汚染の軽減に努めます。
廃材等の発生を減らすとともに利用を積極的に行い資源の節約に努めます。
定期的に環境目標を設定し継続的且つ発展的な活動を推進します。

2004年8月1日

大光炉材株式会社

代表取締役社長 小林 滉

環境方針

大光炉材(株)新素材統括部は、地球規模の環境破壊が進む中、環境保全が世界共通の最重要課題と捉え、ファインセラミックスの製造販売および研究活動において関連する人々の安全と環境保護に、配慮した地球に優しい事業体を目指します。

当事業部では、以下の方針を定め環境保護に配慮した自主的な取組みを行います。

「エコアクション2.1」を導入・運用し、当事業部に相応しい環境経営システムの取組みと継続的改善を行います。

事業活動における環境への影響を正確かつ継続的に把握した上で、技術的・経済的に可能な範囲で目標設定をします。

- 1) 二酸化炭素排出量の削減に努めます。
- 2) 原料、製品において環境汚染に影響を及ぼすものを極力減らします。
- 3) 廃棄物等の発生を減らすとともに、分別収集し、リサイクルを積極的に行い資源の節約に努めます。
- 4) 節水と排水量の削減に努めます。

「環境基本法」および関係法令を遵守し、積極的な事業活動を行います。

2006年9月1日

新素材統括部長 平川 明宏

1. 環境目標とその実績

過去の実績と平成 19 年度の目標（数字は何れも売上 100 万円あたりの原単位）

環境負荷項目	単位	平成 17 年度 実績	平成 18 年度 目標	平成 18 年度 見込	平成 19 年度 目標
1 二酸化炭素排出量	K g - C O ₂	784	760	695	681
2 廃棄物排出量	Kg	推定（24.5）		25	24.5
3 総排水量（給水量）	m ³	推定（2.35）		2.40	2.35

平成 18 年までは、一部推定値。二酸化炭素排出量、産業廃棄物排出量、給水量については、各々、毎年 2%削減を目標とする。根拠となるデータが少ない為、19 年度は、しっかりとデータ取りを実施する。また、事業規模があまり大きくない為、数値自体も横ばいになる可能性もあるが、努力改善を継続し、環境改善に注力する。

中期目標（数字は何れも売上 100 万円あたりの原単位）

環境負荷項目	単位	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
1 二酸化炭素排出量	K g - C O ₂	681	667	654
2 廃棄物排出量	k g	24.5	24.0	23.5
3 総排水量（給水量）	m ³	2.35	2.3	2.25

2. 主要な環境活動計画の内容 (平成 17 年度平均に対しての削減量を目標とした。)

二酸化炭素排出量 2%削減

取組内容：電気使用量 2%削減

活動項目

- ・ エアコンの設定温度を決め実行する
- ・ 蛍光灯を省エネタイプへ交換、もしくは間引く
- ・ 不要消費電力の節減

廃棄物排出量 【該当部門での実績が無く、基礎となる数値データを集計することとした】

取組内容：紙・ダンボールの再利用

活動項目

- ・ 裏紙の積極活用
- ・ シュレッダー屑を梱包材として再利用
- ・ 仕入先からのダンボール再利用
- ・ 該当部門専用 ゴミバケット購入

水道使用量 【該当部門での実績が無く、基礎となる数値データを集計することとした】

取組内容：節水活動

活動項目

- ・ 該当部門の専用メーター設置
- ・ 節水コマ設置
- ・ 化学洗剤を極力減らし石鹼使用に

3. 環境活動の取組結果と評価

取組状況

二酸化炭素排出削減について

冬季は、室内温度を 23 に定め、各部屋に寒暖計を設置し、朝夕各部屋の担当者がチェックすることにした。また、蛍光灯については、照度計で計測し、必要以上に明るい箇所のは、間引いた。

目標	単位：製品 出荷額当り	平成 17 年度 実績	平成 18 年度 目標	平成 18 年 11～19 年 2 月 実績	目標達成確認
CO2 排出量確認	Kg CO ₂ /売上 百万円	784	760	853	×
(電気の使用量削減)	Kw/売上百万円	1,960.95	1,900	2,133	×

紙 ダンボールの再利用について

社内書類で重要度の低いものに関しては、使用済みコピー用箋の裏紙を積極利用している。精密製品輸送時の緩衝材に従来は、廃棄可能な発砲スチロール代替既成品を利用していたが、極力シュレッダー屑を緩衝材として利用している。また、仕入先から届いたダンボールで綺麗なものは、外注先への搬送用に再利用している。該当部門専用のゴミ集積バケットを購入した。

節水活動

水道については、会社全体のおおもとにメーターが設置されていたので、今回、該当部門専用メーターを新設した。その結果一部設備からの漏水も発見できた。また、手洗い、食器洗い等には、化学洗剤から石鹼に極力切り替え、すすぎに使う水を減らすようにした。

排水検査

工場廃水が集積する溜升については、業者に委託調査した。結果、問題となるものは、検出されなかった。

評価

以前の数値が、明確でないこともあり、数値に結びつく成果はこれからと思っている。該当部門で、EA-21 の重要性を認識し、全員参加の活動に着手できたことが成果と云える。電気使用量については、数値評価できたものの売上百万円を分母にした目標が不適である可能性もあり、見直すべきか否かも含め継続検討したい。次年度以降については、EA-21 活動を継続し、効果のあるものにしたいと考える。

4 . 環境関連法規への違反、訴追等の有無

環境関連法規等の順守状況を確認した結果、違反はありませんでした。

また、関係機関等からの指摘、利害関係者等からの苦情もありませんでした。